

《そう合問題2》

いろいろなしゅるいの文章問題をといてみよう。問題をとくときは、本文をよく読み、ないようをしつかり理かいることが大切です。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ある日、駅のかべに、はり紙がしてありました。

この上に、ツバメが、すを作っています。
みなさんでやさしく見守ってください。

わたしは「えっ?」と思いました。いつも通る駅なのに、ツバメのすがあつたなんて、ぜんぜん知らなかつたのです。

わたしは、はり紙の上を見ました。かべの上のほうに、すがあります。下から見ると、小さなえだでしつかりと作られていて、きれいな形になっています。

そこに、親のツバメがとんで来ました。すると、今までしづかだつたすの中から、いっせいに声が聞こえました。ひなたちが、「パイ、パイ、パイ。」と、大きな声で鳴き出したのです。

すの中からほんの少しだけ、ひなたちの頭が見えました。親のツバメにえさをねだるために、大きな声で鳴いています。

(問) —線部「ひなたちが、『パイ、パイ、パイ。』と、大きな声で鳴き出したのです」とありますが、それはなぜですか。あとのア〜エの中からえらぼう。

ア きげんなことがせまっているのを、親のツバメに知らせるため。

イ すに帰つて来た親のツバメに、えさをねだるため。
ウ ねているひなに、親のツバメが帰つて来たことを知らせるため。

エ 親のツバメに、すの場所がここだということを知らせるため。

【答え】 イ

【かいせつ】

—線部のあとに、「親のツバメにえさをねだるために、大きな声で鳴いています」と、書かれているので、イが答えになります。「ため」や「から」は、理由を表すときに使う言葉なので、手がかりになります。

【練習しよう】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

毎日、毎日、わたしは駅を通るのが楽しみになりました。下から見ていると、日を追うごとにひなが大きくなつてきているのがわかるのです。親からえさをもらうときに、ひなは体をのばすようにします。その体が、はじめはほん

の少ししか見えなかったのに、少しずつ少しずつ、見える部分が大きくなり、鳴き声も強くなってきました。

そして、大きくなったひなたたちは、すの下で人が立ち止まると、親が帰って来たと思うのか、とても大きな声で鳴くようになりました。

わたしは、毎日、下からツバメのすを見上げては、ひなたたちが大きくなるのを楽しみに見ていました。わたしには兄弟がいなかったので、弟や妹ができたみたいで、何だかうれしかったのです。

ところが、ある日、駅のかべに新しいはり紙がはられていました。

みなさん、ありがとうございます。
みなさんがやさしく見守ってくれたおかげで
ツバメのひなたたちは、
元気にとび立って行きました。

わたしの目から、なみだがこぼれました。でも、悲しかったわけではありません。ちよっぴりさびしかったのと、元気にとび立ってくれたうれしさがまじったような、ふしぎな気持ちでした。

(1) この文章は、大きく二つの場面に分かれます。後半はどこから始まりますか。後半のはじめの五字を、本文中からぬき出そう。ただし、点や丸も一字とします。

(2) 線部「わたしの目から、なみだがこぼれました」とありますが、このときの「わたし」の気持ちを、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 悲しい気持ち。
- イ おどろいた気持ち。
- ウ ほっとした気持ち。
- エ ふしぎな気持ち。

答え

- (1) ところが、
- (2) エ

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

タクヤさんの家の水そうに、どじょうが一匹き住んでいました。いつも、水そうのすなにもぐり、ひげののびた顔をちよこんと出しています。すなの中にすっぽり入ると、あたたかいふとんにもぐりこんでいるみたいで、どじょうは気持ちが悪く落ち着きます。たまに、水草に引っかかるように体を乗せて、ねむります。水草の上で（ ）うかんでねむるのは、まるで空にうかぶ雲のようにゆったりとした気分になるのです。

タクヤさんが学校へ行く前に水そうをのぞきこんで、「おい、元気か。今日も勉強がんばってくるね。」と声をかけてくれるのを、どじょうは、いつも楽しみにしていました。タクヤさんは、どじょうにとってたった一人の友だちでした。水そうの中のくらしはのんびりとしていて、どじょうはとても気に入っていました。でも、ふとしたときに、何だかさびしくなるのです。

ある日のことです。真夏の暑い太陽がしずんで、あたりが暗くなりました。どじょうは、いつものように、すなにもぐってねむっていました。すると、とつぜん、頭の上でバシヤンと大きな物音がしたのです。おどろいたどじょうは、頭まですなにつっこんでかくれました。

しばらくじっとしていましたが、そのあと何も音がしませんでした。

「いったい、どうしたんだろう。」

何が起きたのかをたしかめようと、どじょうはおそろおそろすなから頭を出しました。赤い小さな物が、ひらひらとしっぱのようなものをゆらしています。

① その正体をたしかめなくなったどじょうは、すなから体を出すと、水草のかけにかくれながら、そろそろと泳いで行きました。

近づいてみると、なんと、それは一匹きの金魚でした。

「どじょうさん、こんにちは。ぼく、金魚のキンちゃんです。お祭りまつりでタクヤさんにすくわれて、ここまで来ました。これからごいっしょさせていただきます。どうぞよろしくおねがいます。」

どじょうに気がついた金魚は、ていねいにじこしようかいをして、頭をぺこりと下げました。

金魚にいきなりあいさつをされて、びっくりしたどじょうは、ぽかんと大きな口を開けたまま、何も言えなくなっていました。

だって、どじょうはずっと一人でくらしていたのです。タクヤさんは、ときどき話しかけてくれましたが、水そうの中では、一人でした。だから、ちよっぴりさびしいときもあったのです。

でも、とつぜん、目の前に金魚があらわれたのです。

(1) この文章は、大きく二つの場面に分かれます。後半はどこから始まりですか。後半のはじめの五字を、本文中からぬき出そう。

(2) どじょうは、どこに住んでいますか。本文中から十一字でぬき出そう。

(3) () にあてはまる言葉を、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア すいすいと
- イ ぐんぐんと
- ウ ふわふわと
- エ さらさらと

--

(4) ①線部「その正体」とは、何でしたか。①線部よりあとの本文中から、六字でぬき出そう。

(5) ②線部「びっくりした」とありますが、なぜ、どじょうはびっくりしたのですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア いきなり水そうに入って来た、赤い小さな物の正体がわからなかったから。
- イ 金魚が、水草に引っかかるようにして、ゆっくりと水そうに入って来たから。
- ウ 毎日声をかけてくれていたタクヤさんが、今日は声をかけてくれなかったから。
- エ 水そうの中ではいつも一人だったのに、とつぜん金魚があらわれて、あいさつをしたから。

--

次の詩を読んで、あとの問いに答えよう。

今日は朝からどきどきしていた
さんかん日だ

三時間目の国語の時間

きのう、まちがえないように何回も練習したけれど

① 朝起きてから、もう一回、声に出して教科書を読んだ

学校に着いてもそわそわしていた
だんだん三時間目が近づいてくる

とうとう二時間目が終わった

休み時間のチャイムが鳴ると

何人かのお母さんが教室に入って来た

三時間目が始まった

わたしは前を向いて、先生の話の聞いていたけれど

教室の後ろのドアが

「ガラッ」と開く音がするたびに

② ちらっと後ろをふり返る

③ あっ、お母さんだ

やくそく、守ってくれたんだ

お母さんに小さく手をふった

(1) □に入る、この詩の題名としてふさわしいものを、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 休み時間
- イ さんかん日
- ウ お母さん
- エ 学校

(2) 詩では、一行のあきなどを入れて、小さいまとまりに区切ったものを「れん」といいます。この詩は、何れんからできていますか。漢数字で答えなさい。

れん

(3) ①線部「朝起きてから、もう一回、声に出して教科書を読んだ」とありますが、なぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

ア クラスの友だちといっしょに読むときに、うまく読みたかったから。

イ お母さんがんばって読む練習をしていることを、知っていてほしかったから。

ウ 先生が、国語の時間に読むところを、全部おぼえてくるように言ったから。

エ じゅ業さんかんで読むように言われたときに、まちがえないようにしたかったから。

(4) 「わたし」の落ち着かない様子^{ようす}がわかる言葉^{ことば}を、第二^{だい}れんの中から、四字でぬき出そう。

(5) ②線部「ちらつと後ろをふり返る」とありますが、なぜですか。空らんにあてはまるように、詩の中からぬき出そう。

	教室に	
		が

かどうかをたしかめるため

(6) ③線部「あっ、お母さんだ」とありますが、このときの「わたし」の気持ち^{こころ}を、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 来るのがおそかったので、さびしいと思っている。
- イ どうして来たんだらうと、ふしぎに思っている。
- ウ やくそくどおり来てくれて、うれしく思っている。
- エ とつぜん来たので、ふあんに思っている。

--

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ぼくは、タクヤさんの家の水そうに住んでいるじょうです。いつもは水そうの下にあるすなにもぐり、ひげのびた顔をちょこんと出しています。

タクヤさんは、毎日、学校へ行く前や帰って来たとき、ぼくに話しかけてくれます。タクヤさんは、ぼくのたった一人の友だちです。水そうの中のくらしはのんびりして、ぼくは、とても気に入っていました。(①)、ときどき、ちよっぴりさびしくなるのです。

ある日、ぼくがねむっていると、とつぜん頭の上で、バシャンという大きな音がしました。体が赤くて、(②)と大きなしっぽを動かしています。近づいてみると、一匹きの金魚でした。

「こんにちは。ぼく、タクヤさんにお祭りですくわれた、金魚のキンちゃんです。これからごいっしょさせていただきます。どうぞよろしくおねがいします。」

ぼくはびっくりして、口をパクパクさせました。今までずっと一人だったのに、とつぜん、水そうに友だちが入って来たのですから……。

ぼくは大きく深きゆうをすると、金魚に話しかけました。「きみは『キンちゃん』っていうんだね。こんにちは。ところで、きみはどうして自分を『キンちゃん』ってよんだい。」

「ここへ来るとちゅうで、タクヤさんに名前をつけてもらいました。」

はとてもおどろきました。だってぼくには、まだ、名前がないのです。

③「あなたは、何という名前ですか。」

キンちゃんに名前を聞かれて、しょんぼりしながら答えました。

「ぼくには名前がないんだ……。」

次の日の朝、タクヤさんがやってきました。

「キンちゃん！ よかった、元気にしてたんだ。水そうに入れると、弱ることが多いから。」

水そうの中で元気に泳ぐ金魚を見て、タクヤさんはほっとした顔をしています。ふと、④ぼくと目が合いました。

「あつ、そうだ。水そうの魚も二ひきになったし、どじょうにも名前をつけてやらなくちゃ。何がいいかな。そうだな、よろよろしてるからニヨロちゃんがいい。おい、ニヨロちゃん。」

えっ？ ニヨロちゃんってぼくのこと？ ぼくは目を丸くして、タクヤさんを見つめました。

「ニヨロちゃん、キンちゃんとかよくしてね。」

タクヤさんは、水そうに顔を近づけて、ぼくにやさしく声をかけてくれました。

⑤「名前だ！ 名前！ ぼくも、名前をつけてもらったんだぞ！」ぼくはうれしくて、水そうの中を駆け回りました。

一匹きののんびりとした生活はなくなり、でも、キンちゃんと話をしたり、追いかけてっこをしたり、にぎやかな毎日です。そして、タクヤさんに「ニヨロちゃん」と名前でもよんでもらうと、何だか温かい気持ちになるのです。

(1) (①) にあてはまる言葉を、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア なぜなら
- イ また
- ウ だから
- エ でも

(2) (②) にあてはまる言葉を、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア かさかさ
- イ ゆらゆら
- ウ ぎらぎら
- エ つるつる

(3) — ③線部「あなたは、何という名前ですか」とありますが、キンちゃんにこう聞かれたときの「ぼく」の気持ちを、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア さびしかった。
- イ はらが立った。
- ウ はずかしかった。
- エ ほっとした。

(4) — ④線部「ぼくと目が合いました」とありますが、「ぼく」は、だれと目が合ったのですか。本文中から五字でぬき出そう。

(5) — ⑤線部「ぴきののんびりとした生活はなくなりまして」とありますが、「ぼく」の生活は、どのような生活になったのですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア キンちゃん&けんかばかりの、悲しい生活。
- イ キンちゃんが走ってばかりいる、うるさい生活。
- ウ キンちゃんと遊ぶ、にぎやかな生活。
- エ キンちゃんとも話さない、しずかな生活。

次の詩を読んで、あとの問いに答えよう。

さんかん日

①

今日は朝からどきどき

三時間目は国語だから、

きのう、何度も何度も

家で教科書を読む練習をした。

学校に着いても②していった。

二時間目が終わって

だんだん③が近づいてくる。

いよいよ、じゅ業さんが始まった。

「だれか、はじめの部分を読んでもくれる人はいますか？」

先生のしつ問が終わらないうちに

たくさんの手があがって

④

波みたいにうねった。

いつもは、はずかしくて手をあげないけれど、

今日はちがう

⑤

先生に、どうしても当ててほしかった。

だって、わたしじょうずに読めるんだよ。

お母さんにほめてもらいたくて

何度も何度も練習したんだから……。

(1) 詩では、一行のあきなどを入れて、小さいまとまりに区切ったものを「れん」といいます。この詩は、何れんからできていますか。漢数字で答えなさい。

れん

(2) — ①線部「今日は朝からどきどき」とありますが、「わたし」が朝からどきどきしていたのはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

ア 今日、国語のじゅ業があるから。

イ じゅ業で、みんなが手をあげるから。

ウ じゅ業で、先生に当ててもらえるはずだから。

エ 今日、じゅ業さんかんがあるから。

(3) (2) には、「わたし」の落ち着かない様子を表す言葉が入ります。あとのア～エの中からえらぼう。

ア がやがや

ウ むかむか

イ そわそわ

エ ほのぼの

(4) (③) にあてはまる言葉を、第一れんの中から四字でぬき出そう。

(5) | ④線部「波みたいにうねった」とありますが、これはどのような様子をたとえていますか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア みんなが次々に手をあげる様子。
- イ みんなが口々にさげんでいる様子。
- ウ みんなが立ったりすわったりしている様子。
- エ みんなが先生のまわりに集まってきた様子。

(6) | ⑤線部「先生に、どうしても当ててほしかった」とありますが、それはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア じゅ業さんかんで手をあげることを、お母さんとやくそくしていたから。
- イ 先生のしつ問にだれよりも早く答えて、先生にほめてもらいたかったから。

ウ 教科書をじょうずに読んで、お母さんにほめてもらいたかったから。

エ 先生に当ててもらって、クラスの友だちにいいところを見せたかったから。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

みなさんは、物を数える言葉について、考えたことがありますか。たとえば、本を数えるときは「一、二」と数えずに、「一さつ、二さつ」と数えるし、鳥ならば「一わ、二わ」と数えます。わたしたちは、物を数えるとき、数字のあとに決まった言葉をつけているのです。

この他にも、「回」、「ひき」、「足」、「台」、「人」などいろいろな言葉がありますが、何を数えるかによって、物を数える言葉は決まっています。

つまり、その言葉をみれば、何を数えているかがだいたいわかるのです。たとえば、「一人、二人」と数えていれば人数を数えているのだろうし、「一台、二台」と数えていれば、テレビや自動車などを数えていると想うことができます。

では、ここで問題です。まず、はじめに、「一（①）、二（①）」と数えたときには、何を数えていると思いますか。そうです。たぶん、紙やハンカチ、お皿やシャツなどを数えているだろうと、想うことができるでしょう。

もう一つ考えてみましょう。「一（②）、二（②）」と数えたときには、何を数えていますか。この場合は、えん筆やかさ、ネクタイなどを数えているのでしよう。

物を数える言葉は、何を数えるかによってかわるのですが、^③ 全ての物に一つずつちがった言葉をつけるわけにはいきません。数えられる物はたくさんあるからです。

そこで、^④ いくつかの物をまとめて、同じ言葉で数えるようにしました。どのようにまとめたのか、前に出てきたれいで見てみましょう。

一つは、紙やハンカチ、お皿やシャツのグループ。もう一つは、えん筆やかさ、ネクタイのグループです。気がつきましたか。何だかにたような形をしていますか。

紙やハンカチ、お皿やシャツなどは、うすく広がった形をしています。また、えん筆やかさ、ネクタイなどは、（⑤）形をしています。

ここからわかるように、だいたいにたような形をしている物を、同じ言葉で数えるようにしたのです。

（一）この文章に題名をつけたいと思います。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 物の名前
- イ テレビや自動車
- ウ 物を数える言葉
- エ 数えられる物





(2) (①)、(②)にあてはまる言葉を答えよう。ただし、(①)はひらがな二字、(②)は漢字一字が入ります。

	①
②	

(3) | ③線部「全ての物に一つずつちがった言葉をつけるわけにはいきません」とありますが、その理由をあとのア～エの中からえらぼう。

- ア 物を数える言葉をおぼえられないから。
- イ 物には数えられない物もあるから。
- ウ 物を数える言葉は決まっていなから。
- エ 数えられる物はたくさんあるから。

(4) | ④線部「いくつかの物をまとめて」とありますが、どのようなものをまとめたのですか。空らんにあてはまるように、本文中からぬき出そう。

を、まとめた

(5) (⑤)にあてはまる言葉を、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 細くて長い
- イ あつくて長い
- ウ 丸くて細い
- エ うすくて小さい



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

わたしたちが物を数えるときには、数字のあとに決まった言葉をつけて数えます。

(①)、本は「一」(②)、紙は「一まい」、鳥は「一わ」というように数えます。数字だけで「一、二」と数えることは、ほとんどありません。

物を数える言葉には、たくさんやしるいがありますが、中には、ふしぎな言葉があります。一つ、れいをあげてみましょう。「さお」という言葉です。「さお」は、何を数えるときに使う言葉か知っていますか。あまり聞いたことがないかもしれませんが、この言葉は、(③) を数えるときに使います。

では、なぜ(④)は、「さお」と数えるのでしょうか。(⑤)は、三百年前ぐらい前から使われるようになりましたが、はじめのころは、とてもかちのある物でした。そこで、家の中の大切なものを、(⑥)に入れて、自分の家や近くの家が火事になったときに、すぐに、(⑦)を外の安全な場所に運び出せるようにしました。

外に運び出すときにかんたんのように、(⑧)の両がわに金具をつけ、そこに「さお」を通し、その前と後ろを人がかっいで、(⑨)を運ぶことができるようにしたのです。

このことから、(⑩)を数えるときには、「一さお、

二さお」と数えるようになったのです。

その他にも、ウサギは「一わ、二わ」と「わ」で数えます。これには、ウサギの長い耳が鳥の羽のようだからとか、ウサギがはねる様子が鳥にしているからなど、いろいろな理由があります。

この他にも、物を数える言葉を調べてみると、おもしろいものがたくさんあります。

(①) (②) にあてはまる文をつなぐ言葉を、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア けれども
- イ それから
- ウ たとえば
- エ また

(③) (④) にあてはまる言葉を、ひらがな二字で答えよう。

□

□

□

